

# えでびあん

立川と語ろう 立川に生きよう

April 2016

Écoutez Bien Vol.34 No.377

4

立川生まれ立川育ちの落語家です

表紙の人／「立川で四代」(株)富士技研のみさん(錦町)



# 立川駅南口 駅前大通り

南口の商店街を眺めてみる。  
平成生まれの人には  
説明がないと、  
どこだかさっぱりわからない？

伊勢丹が立川に出店して70年になる。終戦後の1945年から、伊勢丹新宿店は建物の3階以上を連合軍最高司令官総司令部に接収されていた。その営業を補うため、伊勢丹は各地に売店を開設する。そのひとつが立川売店で、1947年(昭和22年)10月10日に立川市柴崎町3丁目44番地に木造トタン張の2階建て、延べ23坪で開店。小さな家という感じだろうか。南口大通り、オリオン書房の数軒南にあった。伊勢丹の社内記録には「当初は1階のみを売場とし、学生を中心とした顧客に文具、事務用品等を販売し、2階は社員の臨時宿泊所とした」とある。その後、衣料品の取扱が増えたので2階は倉庫になったそうだが、その衣料品も学生服や工場関係者の作業服が中心で、今のようなおしゃれのための衣料品ではない。当時の南口大通りの写真を見ると、なるほど学生の数がとても多く、お祭りかと思えがうばかりだ。若い力が溢れ、「立川はこれからだ!」という気運が写真から伝わってくる。

立川市の人口増加、商業地域としての発展に伴い、伊勢丹立川売店は業績を順調に伸ばし規模拡大へと進んでいく。1951年(昭和26年)には取締役会で「立川売店拡充の件」が討議され、翌1952年(昭和27年)2月1日に北口へと移転、南口の立川売店は閉鎖された。曙町の通称「銀座通り」に面した新店は、述べ面積166坪と今とは比べ物にならない小規模ながら、中央線沿線では初めての百貨店として注目を集めた。伊勢丹としても本格的な支店第1号だった。この後ますます業績を伸ばした伊勢丹はさらなる拡充へと進んでいくのだが、北口での変遷については次号に述べることにしよう。

住みやすい住宅地として商店街を中心に発展してきた南口。時代の流れとともに通りの姿も変わっていく。現存するビルの名前にその昔を偲ぶことができるものもあれば、すっかりわからなくなってしまったところもある。いずれにしても、掘り起こせばそこには歴史があり、生き生きと動き語らう人々が見えてくる。あの魚屋さん、あの寿司屋さん、あそこにあったお医者さん、あの本屋さん……。未来は重ねた歴史の先にあるのだと、改めて思う。

取材協力:伊勢丹立川店  
カラー写真は武田和紀氏撮影



昭和20年代の南口大通り 日本勧業銀行の少し先に伊勢丹の看板が見える(写真:立川市歴史民俗資料館)



昔ながらの店が並ぶ南口大通り。左側の一番駅よりにマクドナルド、そこに以前南羊堂があった(平成元年3月22日)



荏苒 望仙閣 現在は中央病院の健康クリニック(平成2年6月22日)



オリオン書房(平成8年1月24日)



南口大通りの夜景 ナンコードーもしゅんもここにあったのかと思う 寿司の看板は入船(平成8年1月24日)



向かって左側の商店街が消え、道路の幅が広がっていく(平成8年7月16日)

# 危機管理とは

## スペシャリストが語る——米村敏朗氏——

2016年2月1日、東京多摩日米協会の新春講演会(於:パレスホテル立川)。平和な日常とは異質な話。しかし知らないだけで、実は身近かもしれない話。国の機関が集まる立川。ビジネスにも通じる話。聴いておいてよかった。

### [1] 危機管理とは

自らの経験から、危機管理とは想像と準備だと思えます。よく問題発生後に「それは想定外だったのでしょう」と言われることがありますが、逆に言えばどれだけ想像していたかということだと思います。ただ漠然と想像してただけではダメで、それに対してどれだけ準備をしていたのか、備えがあったのか。私も致命的な失敗ではありませんが、自分な

のように、あらゆる行動の制約があります。

安倍総理から「どうだった?」と尋ねられた時、今申し上げたような行動の制約はもう仕方がないんです。このポストに就いている以上は、当たり前話です。安倍総理に申し上げたことは、四六時中頭の中でいろいろなことを思い描きながら、こういう事態が起こった時にどう対処しようかという頭の体操は、実は常にやっていました。突発的な事態が起こった時にまったく想像していなくて、最初の手をどこでどう打とうかと考えていなかったら、危機管理はできません。少しでも考えておかないとスタートラインができないのです。そういう意味で常に考えている、自分で言うのもおこがましいのですが、それが言ってみれば厄介だったと申し上げました。

### [2] 情報入手ということ

昨年の11月27日にイギリスのRUSI JAPAN\*がパネルディスカッションをやりたいということで、国会の第一議員会館1階の国際会議場でディスカッションがありました。テーマは「2020年東京オリンピックに向けたロンドンからの提言」。その第3セッションが「対テロのインテリジェンス\*戦略」ということで、私には是非そこに参加してもらいたいということでした。ディスカッションの相手は、イギリスの元MI6\*長官のサー・ジョン・スカースレットでした。現在はMI6とは言わず、SISと言います。ご存知のように007の親玉ですね。

そのパネルディスカッションの直前、何が起きたかということ、11月13日にパリで同時多発テロが起こったのです。アブデルハミド・アバウドというモロッコ系のベルギー国籍の人間が、シリアから帰ってきて、ベルギーに住んでいる仲間とコラボレーションしてテロを起こしたという、そういう事件がありました。このパネルディスカッションでは最初に私がプレゼンテーションで、対テロインテリジェンス戦略はどうあるべきか、あるいはどこに問題があるかという話をしました。その時に、フランスで起こった同時多発テロについて、一言で言えば「インテリ

ジェンスの敗北」だと。私は正直申し上げて、やっぱりフランスか、やっぱりISか、やっぱりパリか、やっぱりソフトターゲット\*かということで、あの手のテロは充分想像の範囲だった、そう思うんです。ただ、いつ、どういう形でテロが行われるかという情報を掴むのがなかなか難しかった。中心人物だったアバウドという容疑者、これは後で殺されました。テロ発生後、フランスの首相、内務大臣が何と言ったか。「アバウドというのは要注意人物だった。テロリストとして極めて重要な人物だった。それはシリアにいるものだと思っていた。それがいつのまにか欧州に入っていた。彼がどうして欧州に入ったのかわからない。彼がEUに入ったという情報をフランスの情報機関がキャッチしたのは事件が起こって3日後だった。テロ発生後に情報が来た」と言っていましたね。痛恨の極みだったと思います。

私も経験してきましたが、インテリジェンスで情報は待ってはいけません。取りにいかないと。どこか、誰かから情報来るのを期待してはダメなんで、何かの情報がキャッチされたらそこから常に情報来るように、自分と同じ危機感、情報関心を相手にぶつけなければいけないんです。それできなければ情報は入ってきません。偉そうなことを言いますが、私自身も、ああ、なんで今頃こんな情報来るんだらうという経験がいくつもあります。フランスで起きた同時多発テロは、結局、アバウド容疑者の動向が掴めなかったということだろうと思います。

### [3] 2020年の対テロ対策

2020年東京オリンピックで、ISあるいはISILのテロがあるかないかと言われた時、可能性が何%と言っても意味がない。結論は「あるかないか」なんです。ないと言えれば楽なのですが、おそらくないとはとても言えないでしょう。したがって、テロ対策は打っておかなければならない。テロ対策というのは未然に防いでこそ成功です。テロが発生して、膨大な犠牲者が出て、現場でどれだけテロリストを

### 米村敏朗氏

京都大学卒業後、1974年に警察庁入庁。警察庁警備局外事課長、内閣総理大臣秘書官(小淵恵三首相)、大阪府警察本部長、警察庁副総監、警察庁警備局長、警察庁長官官房長、2008年には第87代警視総監、退任後は第17代内閣危機管理監と国の要職を歴任。退任後2014年3月からは公益財団法人東京オリンピック、パラリンピック競技大会組織委員会理事、同チーフ・セキュリティ・オフィサー。

射殺する、あるいは逮捕しても、テロ対策としてはそれでは失敗です。それほど犠牲が大きいんです。未然防止こそが全てです。

警察で一番大きな失敗は、地下鉄サリン事件です。なぜ失敗かと言いますと、その9か月前に長野で松本サリン事件が起こっていた。危機管理の失敗は徹底的に検証すべきだと、私はいつも思っています。そうしなければ次に備えられないからです。そしてその時、決して人を非難してはならない。非難すると、検証結果が必ずおかしくなる。一体何が本当に問題だったのか。徹底的に検証してこそ、初めて次の対策に結びつきます。サリンというのは旧ナチスドイツによって開発された毒ガス兵器で、毒ガス兵器として使う以外使い途のないものです。松本サリン事件は、世界史上初の毒ガスを使ったテロでした。まさに国家の危機管理の問題です。大事なことは、このサリンを使った二度目の事件をなんとしても防ぐということ。1995年に熊本の阿蘇で、国土利用計画法違反でオウムが大量検挙された。その時からオウムはサリンの製造を始めたんです。おぼろげながら情報はあったと思うが、警察はタイムオーバーで手が打てなかった。結果9か月後の地下鉄サリン事件を防ぐことができなかったということだと思います。

地下鉄サリン事件が起きた時、アメリカのFBIではジョン・パトリック・オニールがテロ対策のオペレーション部長でした。優秀な人物です。彼はオウムがその事件を起こしたのかどうか、一言でいいから教えて欲しいとしきりに言ってきました。実はNYにオウムの支部があったのです。情報としてもらえれば手が打てるということだったのです。結果的に日本の警察は相当遅れて情報は出したようですが、私が外事課長になって早速FBIを訪れようとした時、まだ彼は怒っているかもしれないと部下に言われました(笑)。

その後、1996年ベルーの首都リマで日本大使公邸がトッパク・アマールというグループに占拠された事案がありました。FBIの彼のところに電話をかけて「是非協力してほしい」と言ったら、全面的に協力するから何でも言って欲しいと。現実リマで4か月かかりましたけれども、非常に大きな協力ももらいました。その彼は2001年の8月にFBIを辞め、就職した先が世界貿易センタービルです。そして9.11で亡くなりました。因果なものだと思いました。彼ほどテロと戦ってきた人があそこで亡くなるんだなど。まだ遺体は見つかっていないそうです。テロ対策というのは非常に厄介なものです。

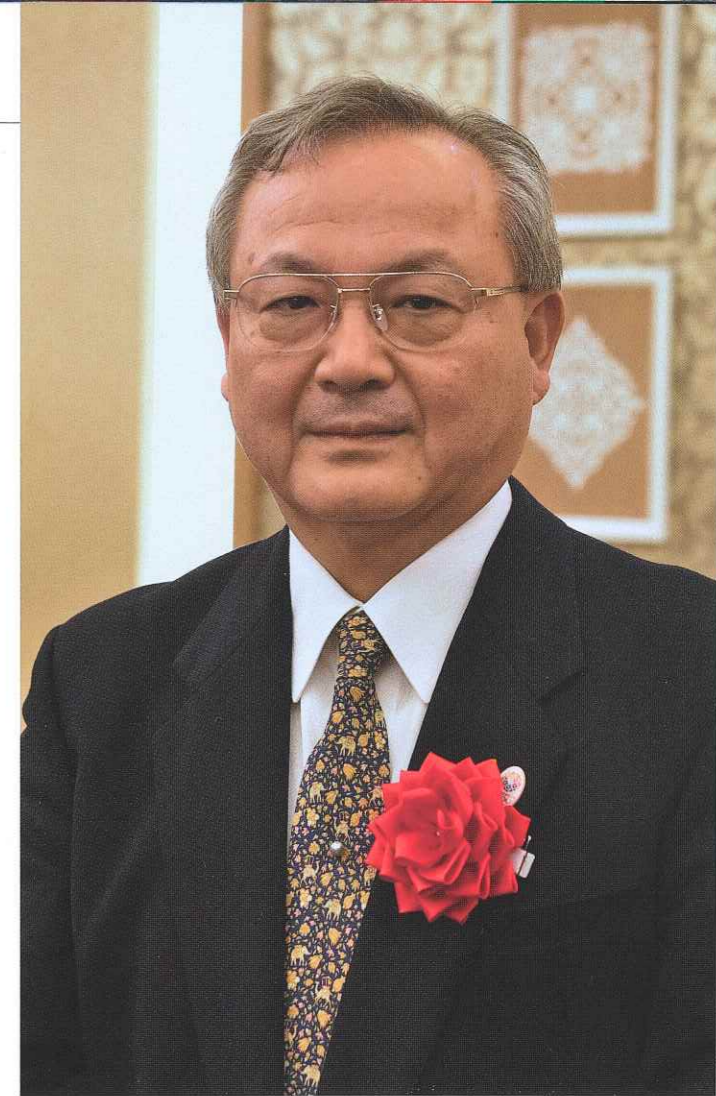
私が外事課長になって、一番初めにしたことはイスラム教の勉強です。国際テロに携わり、またそれ以前に国際会議でもイスラム原理主義過激派

のテロの問題はメインテーマになっていました。ですから、イスラム教というのはどういう宗教なのだろうかと、飯森嘉助\*という先生からいろいろ教わりました。いまだに最も印象に残っているのは、「イスラム教というのは7世紀初めにムハンマドによって創始された宗教ですが、火山でいうとまだまだ活火山なんです」ということでした。今ISがあれだけ力を持っているというのは、まさにイスラムの原点であるカリフ制、創始者であるムハンマドの代理人、後継者であるというカリフ制。ムハンマドが唱えたコーランやシャリーアをベースにイスラムの共同体ウマを作る。これはすべて、イスラム教徒にとって理想の話だからです。やっていることはむちゃくちゃです。しかし力を持っている。世界各国にこれに同調するグループがいっぱいあります。個人もいます。ホームグロウンテロ\*ですね。さて、それでは日本では起こり得るかという問題ですが、本来から言えばプライオリティは低い。だかしかし、サミットとかオリンピックとかという場であれば、日本に何らかのインフラができていけば可能性はあると思います。だから手を打たなければならない。

### [4] 終わりに

2005年4月25日、大阪府警の本部長だった時に、尼崎でJR西日本の転覆事故がありました。現場は兵庫県警が対応したのですが、大阪府警からも緊急援助隊という部隊を出しました。部隊が帰ってきたときに現場はどうだったかと聞きました。もう惨憺たるものだったと。一番胸が詰まったのは何かというと、あちこちで携帯電話が鳴っていたことだと言います。やはり家族にしてみれば、自分の家族の身を案じて必死になって携帯電話をかけていたのだと思うんですね。部下は電話は取りませんでした。取れなかったと。取っても誰の携帯かわからない。もうひとつは、家族はなんとか連絡がとれないかと携帯電話をずっとかけ続けている。もし取ったら、やっと通じたと、それだけでもほっとする。場合によっては説明の仕様がわからないのです。

あの時のJR西日本さんの記者会見が修羅場でした。ひとつの大きなきっかけは何か。実はあの転覆した列車は、前の伊丹駅でオーバーランしていた。記者がそれを知っていて、何mかと聞いたんです。対応した人は8mと。オーバーランがあの事故の原因ですか?と聞いたら、まあ、8mですから、とか



なんとか言っていました。が、実際にはオーバーランは70mだった。70mのオーバーランが8mに、しかも大事な記者会見の場で、会社を代表してマスコミ対応しているのに、です。あの亡くなった運転手が車掌と、言葉は悪いですが、口裏を合わせて会社本部に8mと報告した、その情報がそのまま記者会見で使われたのです。ですから、情報というものは決して事実ではない、事実の投影だということ。どこで光を当てて映しているかによって、グルッと変わってしまうこともあり得るということです。

危機管理の問題は多岐に渡って大変ですけれども、誰かが何らかの形でやらなければならない。そういう立場にたってお仕事をされている方は大変だと思いますが、是非がんばってやっていただきたいと思っています。

**RUSI JAPAN**: 世界で最も古い防衛・安全保障分野におけるイギリスのシンクタンクのアジア本部で東京にある

**インテリジェンス**: 国家の安全保障の観点から情報を収集する諜報活動のこと

**MI6**: イギリスの情報機関のひとつ

**ソフトターゲット**: 民間人や民間車両、民間の建物など警備などが手薄な標的

**飯森嘉助**: 中東文化・アラビア語を専門とする学者。拓殖大学名誉教授。イスラム教スンニ派の最も古い最高学府であるエジプトのアズ=アル=ハル大学を卒業。日本ではモロヘイヤを広めたことで有名

**ホームグロウンテロ**: 国内出身者が独自に起こすテロのこと

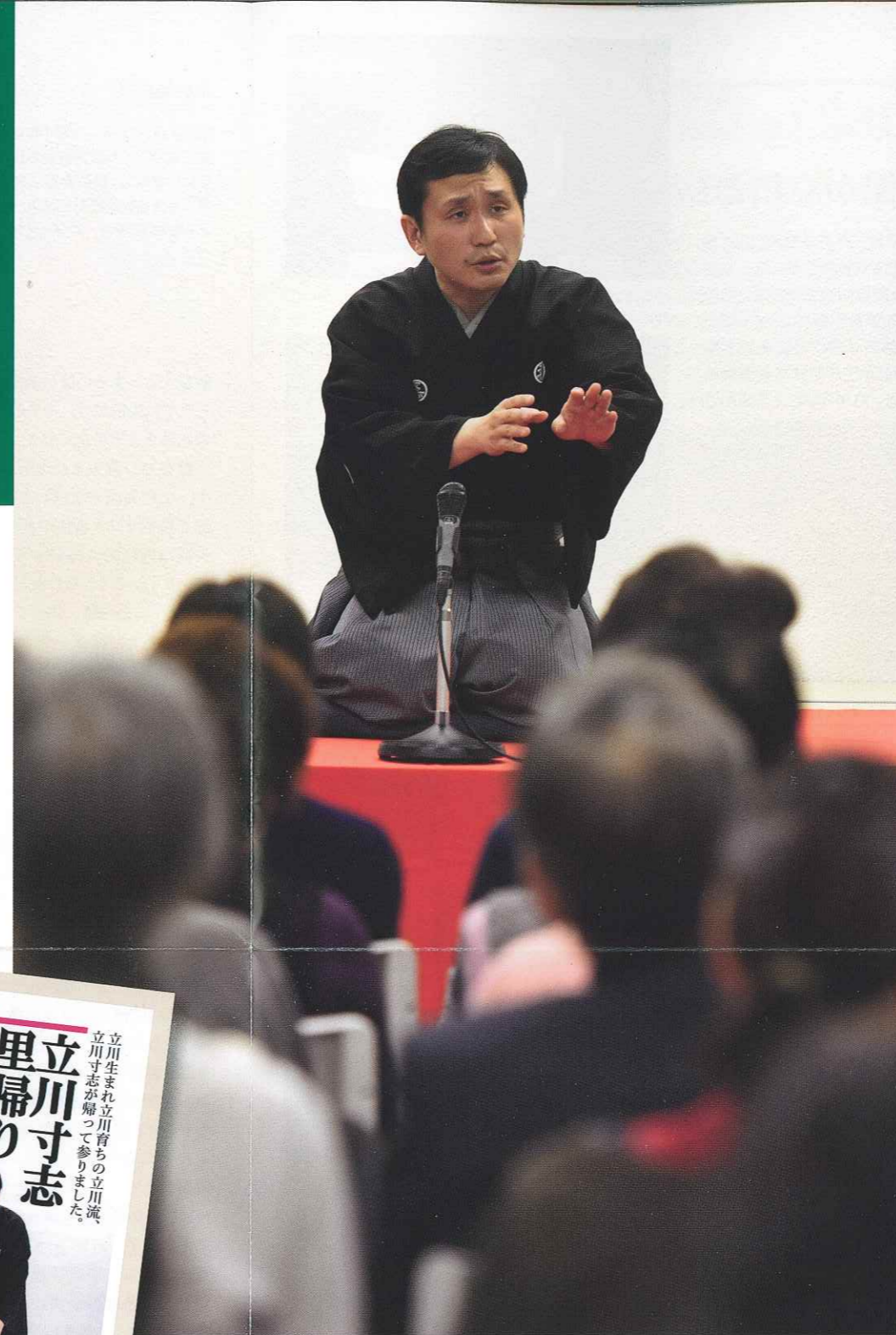
# 立川生まれ 立川育ちの 落語家です

## 行ってきました『立川寸志◎里帰り落語会・第二回』

RISURU ホールのエントランスは若い子連れのお客様で超満員。

おっと、こちらは幼稚園の催し物。

寸志さんの落語会は地下のサブホールでございました。



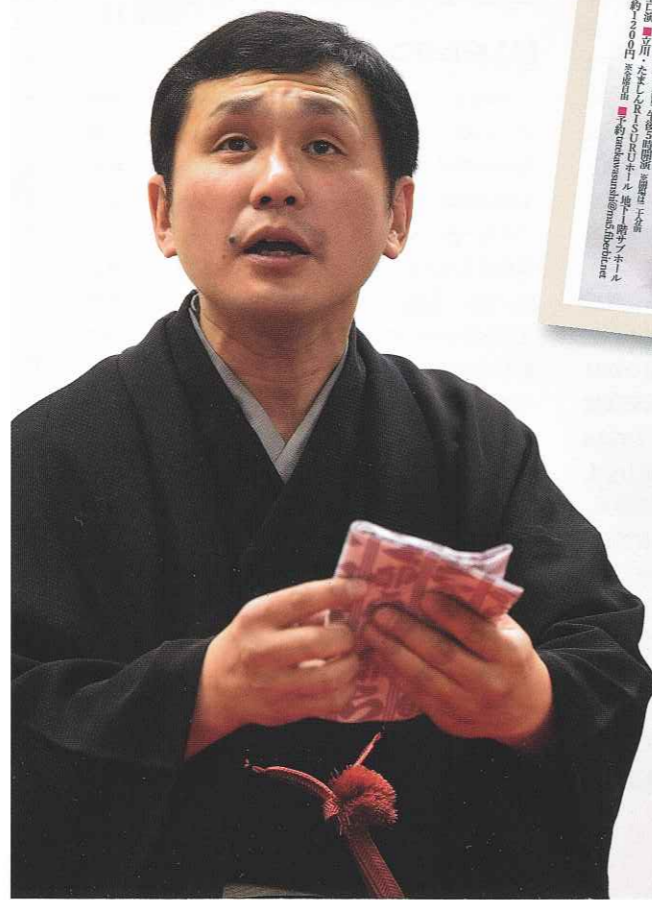
たてかわ  
立川寸志さん。立川生まれの立川育ち。緑川で産湯をつかったかどうかは定かではございませんが、二小、二中、立川高校と、一昔前の怪しげな立川の空気をいっぱい吸って育った立川っ子！都立大学を卒業し大手出版社に就職。まもなく赤ちゃんを迎えるパパ、ママならみんな知ってる雑誌の編集へと、順調な人生を歩んでおりました。

何を思ったか、44歳の時。一念発起とはこのことか。落語家になろうと落語立川流の立川談四楼師匠の門を叩くことになります。師匠は、寸志さんの奥さま、純子さんをお呼びになります。それもそのはず、落語家になってにわかには食っていきけるはずはない、覚悟を問われたのは奥さまでした。公務員の純子さん、「これからは保護者になります」との言葉通り、夫のわがままな人生を支え、落語会ともなれば司会もお囃子の音出しも、せっせせせとこなします。

かたや寸志さん、もちろん周りの協力に大いに応え、48歳になる2015年には前座からあつという間の二ツ目昇進。羽織・袴を着けられるようになりました。高座での話によれば、この袴。某所専門店に行ったら寸志さん、「仙台平の袴をください」、お店の方「仙台平の柄ね」と。うーん、ここは笑っていただきたいところ！仙台平といえば仙台市で作られる絹織物。国の重要無形文化財に指定されている超高級品。ということで、寸志さんの袴は仙台平の柄のポリエステル製。体育館のようなツルツルした床でスーッと滑れば、「燃える」のだそう。

さて、高座に上がれば好きが高じた本職でございます。上手くないはずがない！お客様に子どもさんが多いと見れば、演目をサッと『寿限無』に変えてしまうあたり、にくいにくい。「長い話におつきあいを」と始めた『井戸の茶碗』も、武士になったりくず屋になったり、男になったり女になったり、楽しませていただきました。立川の地はこの時代、面白い方を生みだす土壌があったのでしょうか、立川高校の同期生には講談師の田辺凌鶴先生もいらして、3月5日には母校・立川高校で二人会も開催されたそう。講談師といえば立川には宝井一凜先生もおられます。落語や講談はまさに文化。混沌とした立川だからこそ生み出すことができた文化の担い手かもしれません。

RISURUサブホールは満員御礼の札止めでしたが、次回、秋にはRISURUは小ホールでの落語会となりましょうか。そうそう、寸志さん、中学生の頃に、創立30年になる立川落語会の初回発表会をご覧になっていたのだから。「それで道を踏み間違えちゃった」とは責任を感じた？立川落語会のお言葉です。



立川落語会創立当時から在籍するメンバーと。左が立川亭小はくさん、右は立川亭六助さん

えくてびあんの輪

えくてびあんはリストのお店にあります。今月は 栄町・高松町・曙町 のお店です。

- 栄町**
- FUKUSHIMAYA 立川店 534-1700
- 相模屋酒店 536-2476
- メンズカット ヤザワ 536-8738
- 大型コインランドリー マンマチャオ栄町店
- 高松町**
- 丸助青果店 522-3542
- 米穀・食料品 横町屋 522-2609
- 中華料理店 太幸苑 527-0906
- 不動産・賃貸・店舗情報 まどか 527-7377
- セイロン風カレー シギリア 507-2418
- ふじ整体院 540-9155
- ライブハウス Crazy JAM 529-9507
- ライブ喫茶 炭火煎茶 はんもあ 521-2959
- 立川湯屋敷 梅の湯 522-3800
- ヘアサロン イトウ 522-6281
- 立川伊勢屋 本店 522-3793
- 書籍・雑誌 フレンド書房 527-1555
- 大野サイクル 523-2061
- パンのお店 Dragee ドラジェ 525-2730
- 立川キリスト教会 526-6826
- サロン・ケベク美容室 527-4716
- HAIR MAKES たしろ 525-2175
- 曙町**
- うなぎ しら澤 524-5061
- 中華料理 福心楼 524-2343
- 久住ハウジング(株) 527-8007
- 不動産 大晋商事 525-3110
- ヤマハミュージックアベニュー立川 523-1431
- 蕎麦懐石 無庵 524-0512
- TABACCONIST ゼファルス 524-0514
- ブティック ASHUTE VENI-VENI 521-1481
- ビストロ シェ・タスケ 527-5959
- あら井総本店 522-2957
- 立川駅前北口整骨院 548-3339
- 大衆劇場 立川けやき座 512-5057
- 立川伊勢屋 ルミネ店 524-3395
- たましん すまいるプラザ立川 0120-667-646
- オリオン書房 ルミネ立川店 527-2311
- みずほ銀行 立川支店 524-3121
- コスモール 辰巳屋 524-6051
- エミリーフローグ 本店 527-1138
- カフェ クリムト 526-3030
- 黒毛和牛専門店 焼肉 FUKU 523-0166
- 宮地楽器 MUSIC JOY 立川北 527-6888
- TAKE THE HONEY スイーツ 523-8200
- 三井住友銀行 立川支店 522-2151
- レストラン サウニ 525-1662
- 立川献血ルーム 527-1140
- アートルーム 新紀元 528-6952
- MOTHERS ORIENTAL 528-0855
- たましん 本店 526-7700
- 和食どころ 若草茶屋 526-0010
- 三上饅頭店 522-3259
- エフエムたちかわ 524-0844
- ラ・フランス 529-5522
- ビックカメラ 立川店 548-1111
- Charcoal Dining るもん 527-3022
- 酒亭 玉河 522-2654
- 三菱東京 UFJ 銀行 立川支店 524-4121
- 玉屋 KITCHEN 595-7847
- 立川グランドホテル 525-1405
- カフェ アバン 527-4479

yorakugajo

真如苑提供番組「常楽我浄」

スカパー！：529ch

スカパー！で放送の常楽我浄はスマートフォンアプリ「ivy」(無料)で視聴できます。

J:COM 多摩：111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題

多摩六都科学館が立川と！

2月6日(土)、多摩六都科学館(西東京市)と国立極地研究所が相互協力に関する協定を締結しました。この連携で、研究成果がより広く一般に知られることになり、この多摩地域から未来の科学者を生みだしていくことにつながるかもしれない、というお話です。締結式を前に、多摩六都科学館 イベントホールでは昭和基地とライブでつなぎ、教員南極派遣プログラムにより昭和基地に滞在中の本物の先生たちによる南極授業を行いました。さすがに高校や小学校の先生です。とても授業の進め方がおもしろく、集まった小学生はみんな、ライブ映像に集中していました。締結式後には、多摩六都科学館のプラネタリウム サイエンスエッグで、極地研の先生でオーロラの専門家 片岡龍峰先生による『ロクトサイエンスレクチャー 極地の星空とオーロラ』が開催されました。多摩六都科学館の展示室には、昭和基地のライブ映像が流れる極地研のコーナーもできました。

なにより「世界一進んだプラネタリウム」と認定されたサイエンスエッグ。高輝度LED光源を採用したシャープで明るい1億4000万個の星の輝きは、ため息が出るほどです。そしてその星空の説明がものすごくわかりやすい！星空だけでなく、地球のこと、生物のこと、多摩のことなどが極地研の研究とひとつになって、立川の皆さんにも、もっともっとわかりやすく身近になっていくのではないのでしょうか。



締結式で、多摩六都科学館の高柳雄一館長(左)と極地研の白石和行所長(右)



南極教室



多摩六都科学館展示室内の極地研コーナー

お相撲さんがやってくる！

「平成28年夏巡業大相撲立川立飛場所」が開催されます。2月23日(火)に立川市役所で開催調印式が行われました。公益財団法人 日本相撲協会 巡業部長の高崎龍水親方、勲進元の株式会社立飛ホールディングス 村山正道社長、そして立会人の清水庄平市長のお三方で調印を済ませると、にこやかに握手、立川全体で成功へ盛り上げていこうという雰囲気でした。暑い夏を楽しむ企画です。日時は本年8月4日(木)の朝からで、場所はららぽーとの南西、立飛ホールディングス敷地内での屋外開催。当日雨が降っても、台風でない限り実施するそうです。もともと国技館のある東京では巡業自体が珍しい。さらに屋外開催となると、立川以外にはない。しかも多摩の土を90t使った本物の土俵、十両以上の力士170人、床山や呼び出しなど関係者含めて総勢270人という規模で、子どもたち50人のちびっこ相撲があったり握手会があったり、内容は盛りだくさん。さらにちゃんこ鍋や焼き鳥、キッチンカー、ドリンクも種類豊富に揃えてのおもてなし！本当に楽しみです。

実は立飛HDでは1979年にも同様の企画を行っており、今回は37年ぶり2回目の開催になります。立川の皆さんとともに楽しんでいきたいと土俵作りから市民の参加を募るのだとか。立川市も呼応して、巡業宿舎として立川競輪場の選手宿舎を提供します。お問合せは右記連絡先へどうぞ。



左から、村山正道社長、清水庄平市長、高崎龍水親方



○専用問合せ先

フリーダイヤル：0120-032-311  
直通電話：042-536-0021  
ファックス：042-536-0025

宝井一凜先生、生まれ故郷での公演でした

女流講談師の宝井一凜先生！真打に昇進された平成25年秋には、えくてびあんも取材させていただきました。平成28年2月25日、この日は立川市錦町はずらん通り商店街の第4木曜日に行われるイベント「4木よんもく」に出演、2席披露されました。演目は「曲馬団の女」と「紺屋高尾」。いずれも親子・男女の人情咄。今どきのお笑いとはちょっと違う「日本の話芸」を生で聴くと、やはり感動します。「講師、冬は義士、夏はお化けで飯を食い」というところから一凜先生の軽快な語りが始まり、「お化けとは幽霊」と牡丹燈籠の一幕を、「義士とは赤穂義士伝」のことで仇討の様子を語る語り口は講談の最も講談らしいところ！これを「修羅場」と言うそうです。お客様も身を乗り出して聞き入っていました。会場はJRAのB館でしたが、実は一凜先生、会場の目の前で誕生し19歳までそのお隣のビルに住んでいたそう。錦町繁華街の空気は懐かしいものであったかもしれませんが、突如、枕(導入部)を遮るお客様の声。肝の据わった一凜先生、無粋な声に応じてそれまで話されていた「修羅場」とは華々しい戦闘場面などを畳みかけるように語る話芸の1つのようにでしたが、この説明はまた今度、どこかでうかがうことにしましょう。



表紙の人

森竹帝二さん、<sup>ふみ</sup>章太さん、<sup>あきら</sup>勇太さん、悠惺くん、海惺くん

錦町6丁目、立川通り沿いにある(株)富士技研。お米も販売していますが、精密設備総合プラント設計施工の会社です。日本中、あちらこちらのお米屋さんを取引先。帝二さんのお父さんが初代で発明家。精米機を発明して販売したのがこの仕事の始まりです。時代は進み、段々とその機械では間に合わなくなり、大手メーカーの代理店に。金芽米で有名な会社に修行に出ていた章太さんが戻ってきて、プラント設計を手掛けるようになりました。お米の販売は後から始めたお仕事です。一消費者としては、店頭にある「ロウカット玄米」がとても魅力的。玄米のロウ部分を取り除いてあるから、栄養価は玄米のまま白米のようにふくらみ炊きあがりやすい。勇太さんにかかると、産地で玄米の味は全然違うそう。小さい頃から美味しいお米を食べて、悠惺くんも海惺くんも、すごい通になっちゃうんですね。



かたこと

◆表紙は森竹さんご一家。「今までの表紙、ほとんど知っている人なんだよね」と。森竹さんもきっと皆様から「知っている」と言われます。毎月表紙モデルは紹介でつながっています。皆様のご協力、ありがとうございます。ロウカット玄米、食べました。白米と同じ食感で、玄米なのに！と驚きました。おいしいです◆先月に続き、今月また某テレビ局のディレクターさんがえくてびあんに。平成の南口写真をお探して。ちょうどえくてびあんでも街づくりを連載中。一緒に平成写真を見たのですが、解体、造成の写真ばかりで、テレビでお探しの「懐かしい商店街の街並み」は、見つかりませんでした◆隣の日は人口が増えているのに立川は減ってしまったのだとか。「懐かしい街並み」は消えても、心意気といいますが、立川魂といいますが、そんなものは残っているのでは？宝井一凜師匠にしても立川寸志さんにしても、まだお目にかかったことはありませんが、田辺凌鶴師匠にしても、その「懐かしい街並み」の中で育った皆さんです。立川の匂いとか、立川の音とか、立川の立川らしさが語れる方々。えくてびあんの表紙の方たちと語る場があれば、そこにまた「懐かしい街並み」が新しい形で生まれるのかもしれない。◆「立川と語ろう 立川に生きよう」これがえくてびあんのキャッチコピー。引越しや人事異動の季節です。でも、えくてびあんはいつも立川と共にあります。えくてびあんスタッフ一同

おじゃましま〜す！ [45]

高尾亭

立川市内には錦町と羽衣町に、「高尾亭」が2軒あります。ここでご紹介するのは錦町の「高尾亭」。立川駅南口から錦中央通りをまっすぐ降りて行ったら左手に年季の入った看板が見えてきます。昭和3年の創業ですから立川駅南口開設より古い。文字通りの老舗です。初代が立ち上げ、二代目が守り、そして三代目、4人兄弟の末っ子にパトタッチしたばかり。ご両親の味を引き継ぎ、「かんだやぶそば」で修行



を積んだお兄さんに基本をみっちり仕込まれている跡継ぎ。まだ20代の若い感覚が、他店にはない「焼きカレーうどん」や「コロッケそば」を生みだしました。カレーうどんをアレンジしたのかなと思いきや、まったく別物。熱々カレー味のクリームシチューという感じです。ガッツリ系にありがたいのは、ボリュームなおそばとご飯のセット。でもやっぱりそこはおそば屋さん、そばがおいしい。おそば屋さんは昔からお酒をいただくところでもありますから、一品料理も充実しています。中でも鴨焼き！十割そば焼酎「粹蕎」をそば湯で割って、香ばしい鴨と一緒にいただきます。もちろんお酒でもイケルのです。ふくらあなごは天ぷらで。これからは春のお野菜もいっすね。お袋の味、煮魚もありますよ。ご家族で、お友達と、会社の飲み会などにも、どうぞ。

蕎麦屋の老舗です



〒190-0022  
立川市錦町5丁目5-31  
TEL 042-522-2710  
営業時間  
ランチ 11:00~15:00  
ディナー 17:00~20:00  
定休日 日曜日



えくてびあん®

4月号 第34巻 通巻377号

平成28年4月1日発行  
発行 有限会社えくてびあん  
〒190-0023  
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F  
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065  
E-mail message@tamatebakonet.jp  
URL http://www.tamatebakonet.jp  
発行人 黒須環  
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ  
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)  
印刷 三浦印刷株式会社

無断転載を禁じます。



## 人間・文化研究機構はこんなところです

歴史、文化、民俗、文学、地球環境などの諸問題を「人間文化」という枠組みで総合的に研究する機関が『人間文化研究機構』で、立川市緑町にある国立国語研究所と国文学研究資料館は、この機構に設置されています。1月30日(土) ヤクルトホール(港区)で、第27回公開講演会・シンポジウム『没後150年 シーボルトが紹介した日本文化』が開催されました。シーボルト研究には、元国文学研究資料館教授の鈴木淳先生も関わっていらしたとお聞きし、行ってきました。

会場は満席。事前申込でいっぱいになってしまったそうです。主催者ご挨拶は機構長の立本成文先生、企画主旨はこの研究を中心となって進めてこられた国立歴史民俗博物館(佐倉市)の日高薫先生がお話しされ、ようやくくたびあんにこのシーボルト研究の流れがわかってきました。

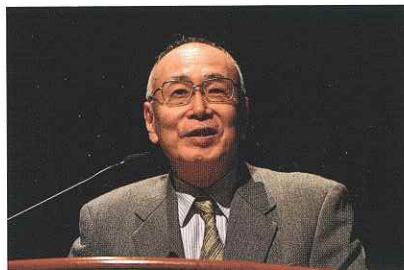
19世紀の日本で収集されて、その後海外に渡ってしまった日本の資料は数多く、外国人によって持ちかえられたコレクションは、収集された時期や経緯がほぼ明確な、時代の「基準」とな

る貴重な歴史資料なのに、その存在や価値が目立たないまま収蔵庫で眠っていることが多いのだそうです。某テレビ局の鑑定番組に、よくびっくりするようなお宝が飛び出しますが、ああ、それはこういう所に眠っているのか…と納得。そういった資料に光を当てて再評価し、日本国内の歴史研究に役立て、海外における日本研究や文化紹介の活性化に貢献したいというのが、この研究プロジェクトの趣旨だそうです。なるほどな～、世の中にはまだまだ知らないことがいっぱいあるんだなあ、でもどうしてシーボルト?

シーボルトは江戸時代、2度も日本に来ていました。彼と彼の息子のコレクションは質・量ともにすぐれ、全体像がある程度把握されているそうで、これまでの調査研究の成果を補うとともに、資料情報の共有化のシステムづくりのモデルケースになるというわけです。ある程度把握されているということは、鑑定番組に飛び出してくることはなさそうですね。シーボルトについて、ほとんど何にも知らなかったくたびあん。今回の公開講演会はとって面白かったです。

ここで基調講演をなさったボン大学名誉教授のヨーゼフ・クライナー先生が、

めっちゃくちゃ立派な日本語で、シーボルトについて語っていただきました。東京大学名誉教授で植物学者の大場秀章先生は理科系博士のお立場から、シーボルトが欧州の庭を日本の植物で変革したいと考え実行した話をされました。やはり東京大学の松井洋子先生は駆け足で、鎖国や出島、日本にやってきた異国人の話をと、盛りだくさんな内容でした。時間がなくなってしまったパネルディスカッションは、会場からの質問への回答で終わってしまいましたが、次回が楽しみです。



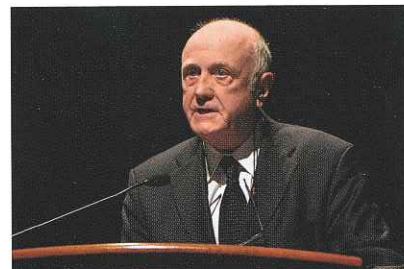
機構長 立本成文先生

出島の図



川原慶賀『出島図』(模写)個人蔵 東京大学史料編纂所寄託 (長崎市出島史跡整備協議会編『出島図』より)

パネルディスカッション



基調講演をされたヨーゼフ・クライナー先生